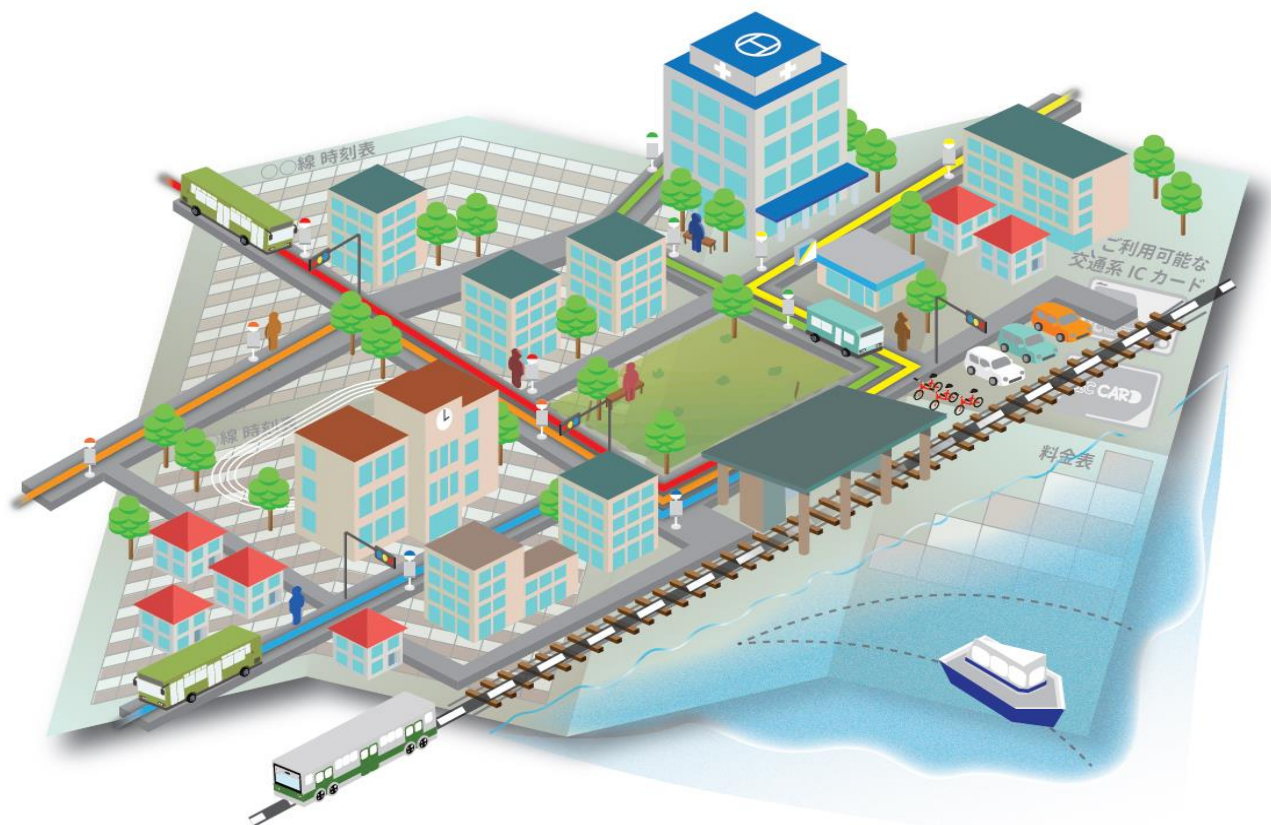


なるほど!!公共交通の勘どころシリーズ 公共交通マップづくりの勘どころ

(概要版)



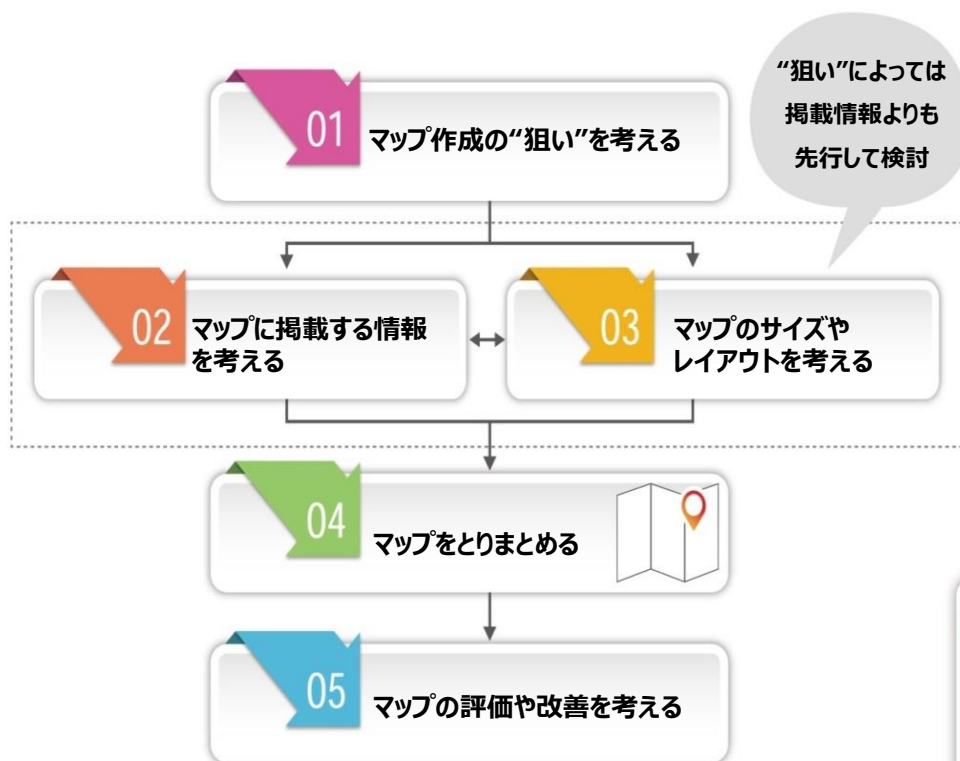
平成31年3月



国土交通省 九州運輸局

本書は、自治体の公共交通担当者や交通事業者が、今後新しく公共交通マップを作成する、あるいは、これまでの公共交通マップを大幅に見直す場合の考え方や留意すべきポイントなどをお示しするものです。

公共交通マップの作成手順



▲公共交通マップの作成フロー

公共交通マップの“中身”を決めていくためには様々な要素を考慮する必要があり、地域や対象者によって盛り込むべき内容は違ってきます。

一方で、作成費用や紙面の大きさが固まっている場合には、掲載内容を取捨選択していく必要もあります。

このため、より効果的な公共交通マップを考えていくには、**どのような人に何のために利用してもらうのか**といった作成の“狙い”を明確にすることが重要です。



◆ こんな場合の検討手順 ◆

ケース
1

網羅的に情報を掲載して地域の公共交通を十分に知ってもらうことを狙う場合

▶ 掲載情報から先行して検討

ケース
2

外出先での利用を狙う場合

▶ サイズから先行して検討

■ターゲットに応じた情報と留意点

		ターゲット				
		公共交通を知ってもらう	公共交通を利用してもらう	公共交通の 利用の幅を拡げる	観光客・来訪者に案内する	高齢者に案内する
掲載情報	公共交通機関	網羅的に紹介する	網羅的に紹介する	広域交通と地域内交通の乗り継ぎに着目した紹介とする	観光施設や主要な商業施設へのアクセスに利用可能なものに特化する	広域交通よりも日常生活でよく使うものを強調する
	路線	どこからどこに行けるのかをイメージしてもらう	具体的なルートを示し、どの道路を運行しているのかを伝える	具体的なルートを示し、どの道路を運行しているのかを伝える	観光施設や主要な商業施設へのアクセスに利用可能なものに特化する	利用頻度の高い商業施設や医療施設などにアクセスする路線を強調する
	駅・バス停	主要なもののみ示す	全駅・全バス停を示す	乗り継ぎが可能な駅・バス停を強調する	観光施設や主要な商業施設の最寄りの駅・バス停を強調する 駅名・バス停名にふりがなをつける	利用頻度の高い商業施設や医療施設の最寄りバス停を強調する
	時刻表	主要駅・バス停から主要施設までの所要時間を示す	路線別の時刻表を示す (紙面上の制約があれば主要バス停のみ表示)	路線別の時刻表を示す 乗継時刻表を示す	観光施設や主要な商業施設の最寄りの駅・バス停の時刻表を示す(帰りの時刻も検索できるように配慮が必要)	利用頻度の高い商業施設や医療施設の最寄りバス停の時刻表を示す マイ時刻表を盛り込む
	運賃・ お得情報	主要駅・バス停から主要施設までの運賃を示す	駅間、バス停間の運賃表を示す	乗り継ぎ割引や一日フリー乗車券などのお得情報を紹介する	主要駅・バス停から主要観光施設や主要な商業施設までの運賃を示す	利用頻度の高い商業施設や医療施設の最寄りバス停までの運賃を示す 高齢者割引運賃などを紹介する
	利用方法		乗り方や時刻表の見方などを示し、バスの利用方法を理解してもらう	乗り継ぎ利用モデルを示し、乗り継ぐことでより遠くまで外出できるイメージをもってもらう	バスの行先方向幕の見方、運賃の支払方法など地域によって異なるバスの利用方法を紹介する	乗り方や時刻表の見方などを示して、バスの利用方法を理解してもらう
紙面サイズ・ 折り方		手に取って気軽に閲覧できるように配慮する (A3版・二つ折 など)	詳細な情報が確認できるように配慮する (A2版・冊子型 など)	持ち運びができるサイズになる折り方を採用する	持ち運びができるサイズになる折り方を採用する	複雑な折り方はなるべく避ける
文字サイズ						文字サイズを大きくする 白抜き文字を避ける ユニバーサルデザインフォントを適用する
その他			時刻表や運賃は別冊とするほか、インターネットなどへ誘導する方法もある	時刻表や運賃は別冊とするほか、インターネットなどへ誘導する方法もある	インターネットなどへ誘導する方法もある	

1. マップ作成の“狙い”を考える

誰のどんな目的を『ターゲット』としたマップを作成するのか、どのような『使われ方』を想定するのか、といった「切り口」でマップ作成の“狙い”を考えましょう。

また、公共交通を知ってもらうためのマップ、公共交通を利用してもらうためのマップ、公共交通の利用の幅を広げてもらうためのマップなど、公共交通の利用促進の段階に応じたマップを検討するといった「切り口」も考えてみましょう。

！注意！

公共交通マップのターゲットが決まったら実際に作成していくことになりますが、その前に、既に地域に類似のマップがないか確認し、既存のものがあればうまく活用して効率的に作成しましょう。

また、関係者間で調整を行い、作成主体、情報提供や費用負担などの役割を確認しましょう。

『ターゲット』を考える

網羅的な情報提供を行うマップ

特定のターゲットに絞ったマップ

特定の『対象者』や『移動目的』に特化したマップ

特定の『路線等』に特化したマップ

特定の『地域』に特化したマップ

マップの『使われ方』を考える

自宅などで見てもらうマップ

外出先に持ち歩いて使ってもらうマップ

▲公共交通マップの狙いの検討パターン



◆ 利用促進のステップに応じた公共交通マップ ◆

01 公共交通を知ってもらう段階のマップ

公共交通を利用しない人にとって公共交通は謎の多い存在です。まずは全体的なイメージとしてわかってもらうものを目指しましょう。

02 実際に利用してもらう段階のマップ

より具体的な情報提供が必要となります。乗降バス停、ダイヤ（所要時間）、運賃をわかってもらい、公共交通利用に対する不安を払拭することを目指しましょう。

03 利用の幅を広げる段階のマップ

様々な目的・色々な目的地への移動に利用できることを理解してもらうことができれば、さらなる利用の促進や外出機会の増加につながっていきます。乗り継ぎに対する抵抗感を和らげることも考えてみましょう。

1. マップ作成の“狙い”を考える 〈『ターゲット』を考える〉

網羅的な情報提供を行うマップ

地域の公共交通を一体的なネットワークとして捉えてもらうために地域の交通モードを網羅的に掲載することが基本になります。

しかし、情報を網羅的に掲載しようとするとう情報量が多くなりがちです。わかりやすさに配慮しましょう。



◆網羅的なマップでも、わかりやすく使ってもらえるものを目指しましょう◆

交通モードは
すべて掲載したい



情報が多すぎて
見えづらくなりがち…

時刻表も運賃表も
お得な情報も掲載したい



どこを見ればいいのか
わかりづらい…

全域を1枚に示したい



紙面が大きすぎて
使いづらい…

網羅的なマップを作成するときには、
わかりやすさ・見やすさに配慮し
掲載情報の絞り込み、デザインの工夫などを行いましょう。

※全ての情報を掲載するのではなく、時刻表などについては別の資料として作成する、あるいは、QRコードなどを活用してインターネット上の情報に誘導する、といった工夫も考えてみましょう。

※網羅的な情報提供を行うマップに限りませんが、マップを作成する範囲についても検討が必要です。日常の生活が一つの市町村内で完結しない地域では、生活圏域に応じた広域でのマップ作成なども考える必要があります。

特定のターゲットに絞ったマップ

網羅的なマップを作成して完了とするのではなく、次のステップとしてターゲットにとって必要性が高い情報をより詳細に提供する、あるいは情報を絞り込んでシンプルにわかりやすく提供するなど、段階的に展開していくことで、利用促進効果が高まることが期待されます。

①特定の『対象者』や『移動目的』に特化したマップ

- ✓ 観光客に特化したマップ
- ✓ 高齢者向けのおでかけマップ
- ✓ こどもをターゲットにしたマップ
- ✓ 通学での利用促進を図るマップ
- ✓ 通勤での利用促進を図るマップ など

②特定の『路線等』に特化したマップ

- ✓ 沿線の観光情報やイベント情報を掲載したマップ
- ✓ 市街地循環バスマップ
- ✓ コミュニティバスマップ など

③特定の『地域』に特化したマップ

- ✓ 生活圏に応じて地域を分割したマップ など

1. マップ作成の“狙い”を考える 〈マップの『使われ方』を考える〉

「使われ方」によって、マップのサイズ・折り方、掲載すべき情報は違います。「使われ方」も意識して考えましょう。



◆マップの使われ方と留意点◆

1. 自宅や施設などで掲示・検索するような使われ方の場合

紙面サイズ

- ・ 広げて見ることを想定して、A2サイズ程度とする。
※A2サイズでは情報が収まらない場合にはA4版程度の冊子型とすることも考えてみましょう。冊子型にすると自宅で保管しやすくなるメリットもあります。

掲載情報

- ・ 路線や時刻表、運賃などを網羅的に掲載する。

文字サイズ

- ・ 大きめのサイズとする（12ポイント以上）。
・ 可能であればふりがなもつける。

2. 外出先に持ち歩いて検索するような使われ方の場合

紙面サイズ

- ・ 外出先では紙面が大きすぎると広げづらいため、A3サイズ程度までとする。

折り方

- ・ バッグ等に入るサイズであることに配慮し、メモ帳や手帳ぐらいのサイズとする。
- ・ 外出先で簡単に広げたり、たたんだりできるよう、折り数を少なくする。

掲載情報

- ・ 居住地域から中心市街地までの路線や中心市街地内の路線など、外出行動に合わせた情報を掲載する。

■公共交通マップの配布（発信）方法を考える

紙媒体での配布＋インターネットでの公開が一般的です

- ・ 自宅で印刷した際の見え方にも留意する
- ・ ダイヤ改正の際には必ず情報更新を行う
- ・ 紙媒体の配布のタイミングも工夫する

■公共交通マップを作成するための費用を考える

原稿データ・デザイン費用を抑える工夫

- ・ 地元の高校や大学の学生に協力を要請する
- ・ コンペ等を開催し、市民等から公募する
- ・ 交通事業者のキャラクターやご当地キャラクターなどのイラストを使用する
- ・ 観光協会等から写真などの提供を受ける

印刷・仕上げ（製本・折りなど）費用を抑える工夫

- ・ 印刷用紙は定型サイズを適用する
（特注サイズになると用紙代が高くなる）
- ・ 少ない折り回数となるよう設計する
（二つ折り、三つ折りなどの一般的な折り方であれば機械作業で対応可能なため安価に済むが、折り回数が多くなると手作業になるため単価が高くなる）
- ・ 納期に余裕をもって発注する
（印刷会社によって異なる）

■公共交通マップの更新頻度を考える

マップと時刻表は分けて作成することで費用を抑えて更新することが可能です。

2. マップに掲載する情報を考える

公共交通マップの掲載情報

掲載する情報は地域の状況やマップの“狙い”を踏まえて、十分に吟味しましょう。

項 目	概 要
地図 (路線図)	鉄道や路線バス・コミュニティバスの路線、デマンド交通の運行エリアなどを示すもので、公共交通マップの主役となるものです。
時刻表	公共交通の出発時刻や到着時刻を示すもので、地域の全ての公共交通の時刻表(総合時刻表)を掲載しているものもありますが、特定の交通モードのみを掲載したものや、外出目的にあわせた時刻だけを抜粋した「おでかけプラン」、乗り継ぎに着目した時刻表などを掲載するケースも見られます。
公共交通に関する補足情報	運賃やお得な乗車券の案内、乗り場の案内、バスの乗り方など、公共交通に関する補足的な情報を掲載しているマップも見られます。
その他の情報	鉄道や路線バス沿線の主要施設・観光地・イベントなどの情報、公共交通を利用する意識を啓発するための情報などを掲載しているマップも見られます。また、広告を掲載することで公共交通マップ作成費用の一部を広告費で賄っている事例もあります。



◆紙面サイズや見やすさの点からも
掲載情報を選定しましょう◆

分かりやすいこと、使ってもらえることに注意し、掲載情報を絞る

マップの掲載情報は多くなりがちで、利用者が必要とする以上の情報を盛り込んでしまうことも。分かりやすいこと、使ってもらえることに注意し、掲載情報を絞ることを考えましょう。

文字サイズから掲載情報量を設定する

マップに掲載する情報を考える段階で、最低限の文字サイズを設定し、その上で必要な情報は何かを考えてみましょう。

地図(路線図)

様々な工夫を組み合わせ、わかりやすく、使いやすい路線図を作成しましょう。

ベース図(下図)

区 分	概 要	ターゲット
地形図等を ベースとしたもの	一般的な道路地図などと同じように、正しい縮尺や方位で描かれたものです。国土院などが発行する地形図をそのままベース図として使用するもののほか、河川や主要道路等だけを表示した独自のベース図を作成しているケースもあります。	土地勘がない 観光客や 来訪者
位置関係を保ちつつ 距離感を変えたもの ・ 地図情報を 簡略化したもの	施設等の位置関係は保ちながら、その距離を調整することで紙面に納める工夫をしたもので、土地勘のある住民等にどの地域を運行するのかを伝えるには十分です。 また、道路や水路などを省くことで、見やすくする工夫もあります。	住民
デフォルメ ・ 模式化したもの	厳密な縮尺や方位にはこだわらず、大胆にデフォルメしてネットワークを模式的に表したもので、典型的な例としては東京の地下鉄路線図などがあります。 デフォルメすることで、文字サイズを大きくすることができます。	高齢者

路線の表示・目的地となる施設等・拡大図の工夫

項 目	工 夫 内 容
路線の表示	・路線別・方面別に色分け ・運行頻度を線の太さで表示 ・乗り継ぎバス停を目立たせる
目的地となる施設等	・主要施設を記載してバス停の位置関係をわかりやすく ・主要施設と最寄りバス停の一覧表を掲載
拡大図	・路線が複雑に入り組んでいる市街地は拡大図でわかりやすく

2. マップに掲載する情報を考える

時刻表

時刻表は必ずしも掲載が必要というわけではありませんが、目的に応じて掲載するようにしましょう。その際、時刻表には必ず改訂時点を記載することに留意しましょう。

種 類	概 要	備 考
総合時刻表	地域内を運行する全ての交通モードの時刻表を掲載	情報が多すぎて分かりにくい・使い勝手が悪いものになる懸念がある
乗継時刻表	異なる交通モードや、同一の交通モードの路線間の乗り継ぎ利用に特化した時刻表	通勤・通学や通院などの特定の目的で、利便性が高い時刻に絞って紹介するケースが多い
おでかけプラン	外出目的にあわせて、各地域からどの路線の何時の便に乗って外出し、何時の便で帰宅するか、などを具体的な例となるもの	これまで公共交通を利用したことがない人の利用のきっかけとなることが期待される
マイ時刻表	普段、良く利用するバス停の時刻表を利用者自身で記入するスペースを設定	インターネット上で作成するサービスを提供している例も見られる

時刻表を作成する上での工夫

時刻表を別冊で作る

スペースや情報量の関係で公共交通マップに時刻表が掲載できない場合に、別途、時刻表の「冊子」を作成することも考えられます。

同一のエリアに複数の事業者や交通モードが併存している場合や、交通モード間の乗り継ぎ利用が多い場合などに有効です。

インターネットの情報に誘導する

公共交通マップに「QRコード」を掲載してインターネット上の情報に誘導することも考えられます。

通学や通勤での利用が見られる地域などでは利用促進や利便性の向上につながることも期待されます。

公共交通に関する補足情報

地図（路線図）や時刻表に加え、より利用しやすい情報提供を行うため、公共交通マップの“狙い”やマップサイズ等を踏まえながら、補足情報を掲載しましょう。

情 報	概 要
路線・系統一覧	路線・系統ごとの主要な経由地や目的地を一覧表にして掲載
主要施設の最寄りバス停・系統一覧	地域内の主要な施設ごとに、最寄りのバス停や経由・発着する路線を一覧表にして掲載
乗り場案内	バスターミナル内の乗り場やバス停の乗継が生じる交差点近辺の乗り場を地図と行先方面を用いて案内する
交通事業者などの連絡先	鉄道・バス・タクシーの連絡先を掲載
運賃、お得な乗車券情報	均一運賃や回数券、定期券、一日乗車券をはじめとする企画乗車券などのお得な乗車券や割引運賃などに関する情報を掲載
公共交通の利用方法	バスや乗合タクシーの乗車方法、運賃の支払い方法、ICカードの利用方法、行先表示の確認方法などについての解説を掲載

その他の情報

公共交通マップの“狙い”を踏まえ、必要に応じて利用促進・啓発情報や観光案内等の情報も掲載しましょう。

その他の情報の例

利用促進・啓発情報 / 免許返納者に対するサービス
観光情報 / バリアフリー情報 / 駐輪場 / 広告 など

3. マップのサイズやレイアウトを考える

掲載情報のボリュームや想定する“使い方”によって最適なサイズは違ってきます。

また、マップの「折り方」は使いやすさを大きく左右する場合があります。ただただマップを開く手順や、折り目の位置なども考慮しながら掲載する情報のレイアウトを考えるとともに、「折り方」を考慮してサイズを考える必要があります。

マップのサイズと折り方

マップの「サイズ」については、すべて開いた時の「用紙サイズ」と折りたたんだ形の「仕上がりサイズ」の両方を考えましょう。
なお、1枚の紙を折りたたむ形だけではなく、「冊子」の形式にすることも考えられます。

マップのレイアウト

「折り方」にあわせて掲載する情報のレイアウトを考えましょう。

持ち歩きを意識する場合、例えば時刻表の部分は全部開かなくても確認できるレイアウトにするような工夫も必要です。

一部だけを開いた場合でも見ることができるように、掲載する情報についてはできるだけ折り目にかからないようにレイアウトを考えましょう。



◆留め置き配布する場合も サイズに要注意◆

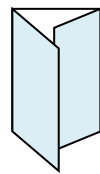
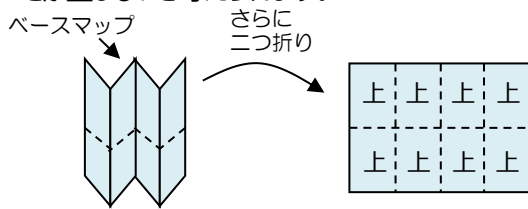
マップの仕上がりサイズは、よく持ち運びのことに配慮されますが、留め置いて配布する場合や郵送で配布する場合も注意が必要です。留め置き配布の場合には棚やラックのサイズ、郵送配布の場合には封筒のサイズを考慮しましょう。

マップの用紙サイズと折り方

	用紙サイズ	仕上別サイズ(折り方)
持ち歩きを 想定する場合	A2	A5(八つ折り)
	A3	A6(八つ折り)、A4(三つ折り)
	その他	A7(ミウラ折り) など
その他の 場合	A1	A4(八つ折り)
	B2	B5(八つ折り)

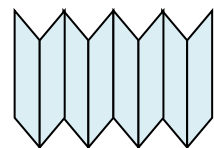
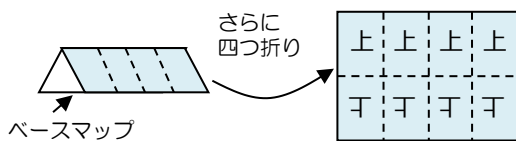
持ち歩きを想定する場合

持ち歩きを意識する場合、仕上がりは最大でもA5サイズ程度に収めることが望ましいと考えられます。



【短辺方向を四つ折り、長辺方向を二つ折り】

【A4三つ折り】



【長辺方向を二つ折り、短辺方向を四つ折り】

【横長変形サイズ蛇腹折り】

冊子形式の公共交通マップ

詳しい時刻表や路線ごとの地図（路線図）等、たくさんの情報を掲載する場合では、冊子形式にすることも考えられます。

4. マップをとりまとめる

分かりやすさや親しみやすさを十分に意識するとともに、できるだけ使いやすいものになるようにとりまとめましょう。また、公共交通マップに掲載する情報には高い正確性が求められることにも留意しましょう。

分かりやすさ・親しみやすさを高める工夫

分かりやすさ・親しみやすさを高める工夫としては次のようなことが考えられます。利用者の視点に立って分かりやすさを高める小さな工夫を積み重ねましょう。

- ✓ 配色やフォントを工夫する
- ✓ キャラクターなどのイラストを活用する
- ✓ 地図(路線図)のなかにランドマークとなる建物をイラストで描く
- ✓ 時刻表は行を交互に色付ける、乗り継ぐバス停を強調する

正確性の確保

記載する情報が正確なものになっているか、十分に確認しましょう。

公共交通に関する情報について交通事業者を確認してもらうのはもちろんのこと、観光地や施設の情報を掲載する場合にも、それぞれの施設などにも確認が必要です。

使い勝手の確認

可能であれば公共交通マップが完成する前に、利用者に実際に使ってもらう機会を設けることで使い勝手を確認してみましょう。

特に、想定したターゲットに見てもらうことでより効果的なマップとなります。

ユニバーサルデザイン



◆ユニバーサルデザイン上の留意点◆

①文字・色に関する留意点

文字	●大きさはできるだけ12ポイント以上にしましょう ●見やすい字体はゴシック体です。ユニバーサルデザインフォント(UDフォント)の適用も考えましょう ●文字間隔は詰めすぎないように注意しましょう ●太字や大きな文字などを効果的に用いて、メリハリをつけましょう
色	●明度に差を付けましょう。また、暖色(赤・オレンジ・黄系統)と寒色(青系統)を対比させましょう ●彩度の低い色同士の組み合わせはできるだけ避けましょう

②ターゲットに関する留意点

高齢者	●できるだけ大きな文字で作成しましょう ●外来語や略語に気を付け、分かりやすい言葉を使いましょう ●色を使うときは彩度を高めにし、コントラストも強めにしましょう
子ども	●イラストや写真を取り入れ、やさしく分かりやすい言葉で表現しましょう ●難しい漢字を使う場合は、ひらがなやカタカナのふりがなをつけましょう
外国人	●外国語を併記するか、外国語版をつくりましょう ●日本の制度や慣習を知らない人にも分かりやすい内容にしましょう

〈引用〉

ユニバーサルデザインに配慮した印刷物作成の手引き(発行2009年10月、福岡市)
<http://www.city.fukuoka.lg.jp/shisei/kouhou-hodo/kankoubutsu-video/ud.html>

ユニバーサルデザイン文書マニュアル(発行2011年3月、宇都宮市)
<https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/shisei/machizukuri/fukushi/1009408.html>

5. マップの評価や改善を考える

公共交通マップは作成・配布しただけで“おしまい”ではなく、「PDCAサイクル」に基づいて評価・改善を行っていくことを考える必要があります。

マップを作成・配布したことによる効果把握はもちろんですが、作成したマップそのものに対する利用者の評価なども確認しながら、より良いマップになるように改善を図りましょう。

マップの評価

公共交通の利用増加、高齢者等の外出増加などの定量的な効果を把握しましょう。

必要に応じてアンケート調査やグループインタビューなどを実施して、実際の利用に至る前段階となる定性的な効果を把握することも考えてみましょう。

マップの分かりやすさ、使い勝手などについての意見や掲載する情報などに関する要望などもあわせて把握することで、マップの改善に向けた検討材料を収集することも重要になります。

マップの改善

マップに対する評価を踏まえて、より使いやすく効果的なものに改善していくことを考えましょう。例えば、乗り継ぎ時刻表やおでかけプランなど補足情報を別途作成・配布することも考えられます。

公共交通マップを活用した段階的な施策展開も視野に、より効果的な利用促進策の進め方を検討しましょう。

公共交通マップの継続性の確保

公共交通の運行状況（路線・ダイヤ等）の変化にあわせて公共交通マップも更新していく必要があります。

交通事業者などの協力も得ながらデータ更新を行い、継続的に配布していきましょう。



◆マップを適宜更新してトラブル回避◆

公共交通をよく利用する人の場合、掲載情報が古くなっていてもダイヤ改正が反映されていないことに気づき、別の方法で調べてくれることもあります。しかし、公共交通に不慣れた人の場合は、元々調べないと利用できない公共交通に対して好印象を持っていないことも多く、いざ利用しようと思ったときに間違ったダイヤなどが記載されていると利用を断念してしまうでしょう。せっかく利用しようと思ってもらった人に確実に利用してもらうためにも、適宜更新を行って、最新の情報を提供しましょう。

◆利用者の感想や要望を反映させたマップが使いやすい◆

公共交通マップは利用者の感想を反映させることでより使い勝手が改善されます。路線やダイヤを検索するときに、どんなところにつまずくのか、一見して読者は何に目がいくのか、載せてほしい情報は何かを確認しながら、一つ一つ応えていくことが分かりやすく使いやすいマップになる近道です。